

「まず、弁護士に相談してみよう」  
そう思える存在になれば。

東京事務所 弁護士 小金澤実

その人が頻々と目の前に現れた時、空気が瑞々しくなったような気がした。弁護士になって2年目、平松剛法律事務所に入所して間もない彼は、はにかんだ笑顔も初々しい。礼儀正しく感じのいい、今どきの若者である。

「小金澤さんは、仕事に前向きに取り組んでいるし、先輩たちに弟みたいにかわいがられている。事務員に対してもフラットで、誰に対しても態度が変わらない。事務員たちが言うように、誰からも好かれている彼が、平松剛法律事務所を選んだのには理由があった。

「ひとつは、労働問題に力を入れているから。司法修習生時代、労働事件に触れ、過酷な労働条件に疲弊する人々の多さに驚いて、働く人の力になっていきたいと思いました」

そしてもうひとつは、自身の働き方に関することだ。  
「弁護士業界では残業や休日出勤が当たり前だったりするけれど、ここは違う。労働問題に力を入れていて、毎日早めに帰れています」とはいえ、早めに帰って遊んでいるわけではない。オフの時間も読書や勉強をしたりして、自己研鑽に励んでいるのだという。

「労働法はもちろん交渉学について学んでいます。深い知識を身につけて、ベテランの弁護士とも渡りあえるように。幸いうちの事務所では、先輩弁護士や全国の弁護士に相談できる環境が整っているから、わからないことや自分で解決できないことがあってもすぐに相談するようにしています」

時代が変化していくにつれ、様々な問題が生まれ、それに対応して法律も変化していく。この先の弁護士業界をリードしていくのは、きっと彼のようにしなやかで、努力を惜しまない世代だ。

「やっぱり、依頼者の人生に直結する仕事ですから。これからいろんな分野を担当して、今以上に知識や経験を身につけたい。特定の分野に強い弁護士がいる一方、私は依頼者のニーズに沿って、幅広く多様な選択肢を示せる弁護士になりたいんです。これ、弁護士に相談してもいいのかな、と悩むんじゃないかと、弁護士に相談してみよう、と思えるような、人々の生活に根ざした存在になっていけたら。そのために、日々勉強です」

法律のスペシャリストとして、ひとりの人間として。

弁護士も法律事務員も、あなたと同じ目線に立って。

人間としての感覚を大切に、嘘のない態度で、あなたに耳を傾け、真摯に向きあいたい。人生において、どうにもできない問題を抱えたときに。

平松剛法律事務所は、心から信頼できるパートナーとして、全力で解決にあたります。

人として、人と向きあう。

平松剛法律事務所